



第73回卒業証書授与式



1日、第73回卒業証書授与式をとり行いました。静波会女性部手作りのコサージュを胸に付けた卒業生が入場し、開式。各担任からクラス代表の名前が読み上げられ、各クラス代表者に卒業証書が授与されました。

笹井校長先生は式辞の中で、19世紀から20世紀にかけてドイツで活躍した、詩人のクリスティアン・モルゲンシュテルンの『住まいのあるところが故郷なのではない。理解してもらえるところこそ、故郷なのだ。』という言葉を紹介し、「君たちがこれまで大切にしてきた、「家族の連帯感や絆」、「ともに学校生活を楽しんだ友人との思い出」、これらすべてが何事にも代えがたい心の「ふるさと」なのです。・・・人はひとりでは生きていきません。社会の中で多くの人と関わりながら生きていきます。それ故、ここ海南高校と、日々の生活の中で培った心の拠り所である「ふるさと」に常に思いを馳せながら、いつかは地元へ貢献できるよう、明日という未来に向けて大いに羽ばたいてください。」とエールを送られました。



生徒会長の炭 捺希さんは、「今なお渦巻く様々な社会問題、また自分自身の問題に目を向け、耳を傾け、これからの人生を大切に歩いてください。この海南高校で、常に自分の意見を持ち、それを表現しながら、「当たり前」の質を高めてこられた先輩方なら、これから迫られる多くの選択の場においても、素晴らしい力を発揮できると信じています。・・・私たちも先輩方と同じように、未来の後輩へ海南高校の伝統をつないでいけるよう、精一杯頑張ります。」と、送辞の言葉を送りました。



また、卒業生の井原 聡志さんが答辞で「在校生の皆さん、もう一息のところで行動に移せていない時、思い切って行動を起こしてみてください。周囲の風当たりが強いときも、うまく事が進まずに苦勞する時もあるでしょう。しかし、それは一歩踏み出してみないと分からないことでもあります。自分らしさや自分の良さを信じ、挑戦することで、大きな成長につながると思います。」と、先輩としてアドバイスを述べました。厳粛で心温まる卒業証書授与式となりました。

